

「若い頃はよく段畑を恨んでもんじゃが。今は宝にみえてくるけん不思議なものよ...」
そう答えた好爺爺たちの昭和三十年代は、まさに青年期。集落の次男三男対策で都会をめざす者もいれば、青年団では花嫁対策や農家の後継者問題が議論された。常に彼らに寄り添った公民館主事は、兄貴分であり指導者であった。畑には芋、零細農家は網子も兼ねた。映画「狩江青年団の記録(昭和34年)」や青年団機関誌「みち潮」には半農半漁の生活の中で、苦悶し、またこの地で生きるよろこびを見出す青年群像がある。

文化的景観だより

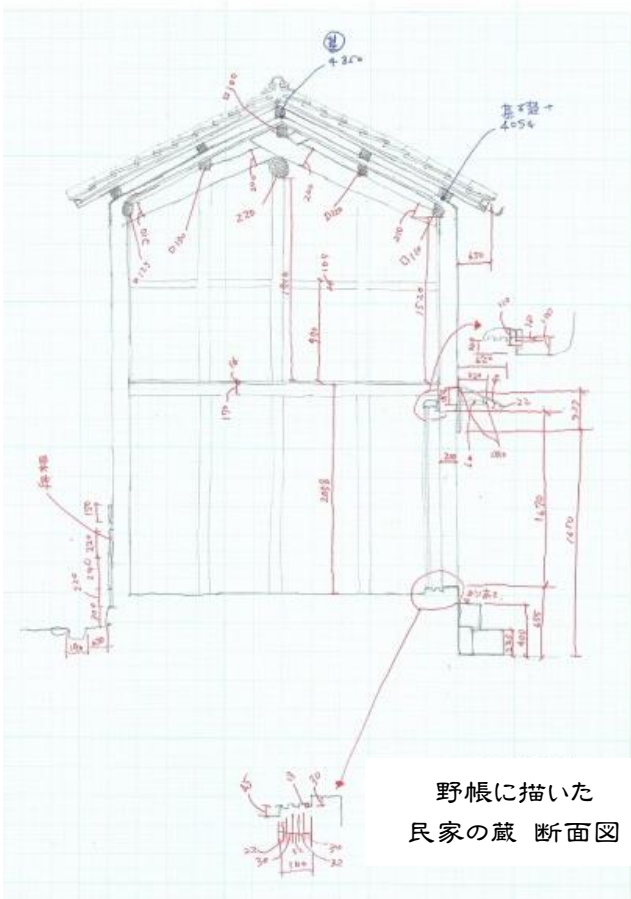
第二号 平成二十七年七月二〇日発行
発行元 西予市教育委員会文化体育振興課



狩浜を調べております
ご協力をお願いします

▼4月から国の重要文化的景観選定に向けて、学術調査が

はじまっています。7人の先生方は海・山・里のチームに分かれ、学生とともに調査が進められています。
【里チーム・釜床・北山班】
この中でも時間を要し、重要



野帳に描いた
民家の葺 断面図

なものが「集落(家屋調査」です。すでに5月から里チームが約3箇月かけて皆さんの家をおうかがいしました▼狩浜の集落戸数はおよそ260戸、付帯する建物や空き家を含めると相当な数です。この調査のあと、地域の生活や生業の特色を表す典型的なものや特徴のある家屋を十数戸、抽出して平面図(間取り)や断面図を作製します▼またそれぞれの部屋がどういう使われ方をしてきたのか、履歴を調べることがあります。これらは時代が移りゆく中で、生活や生業がどのように変化してきたのか、壮麗な景観がどのように形成されてきたのかを明らかにしていくものです▼調査でもはつきりしましたが、狩浜の家屋の多くは養蚕業に使われていたと思われます。古民家で典型的な間取りの家には、床下に桑(しば)や芋(しば)、いろいろなどが備わっていることは、年配の方々ならご存知



のこと。蚕はもちろん絹糸をとるために飼われるのですが、座敷まで蚕を飼っていたことはよく聞きます。人は土間で寝て、蚕は「お蚕様」とよばれ、大切に育てられたと▼明治から昭和にかけて、日本は良質の生糸の輸出大国でした。全国で蚕から採れた繭を生糸にするため、各地で製糸工場がつくられました。今年、世界遺産リストに登録された富岡製糸場(群馬県)などはその

代表です。近くでは大正4年創業の俵津製糸(現俵津公民館)があり、規模・管理とも四国一と言われていたそうです。生糸の輸出で外貨を稼ぎ、日本経済の一端を担い、結果日本の近代化につながったことを思えば、原料供給で製糸業を支えた養蚕業は日本にとっても地域にとっても重要な産業であったに違いありません。ちなみに前の大狩浜集会所は稚蚕飼育場でした▼養蚕業が



盛んになるまで段々畑には、口ウの原料となるハゼの木等も植えられていたようですが、蚕のエサにする桑栽培に切り替えられたことは地域にとって大きな変化だったことでしょう▼大正8年には狩江の桑畑は48町(歩)、養蚕戸数は198戸、収繭量は昭和5年の29766貫が最高でした。7月には概ね集落の全体調査が終わり、8月には石垣調査も入る予定です。



【海チーム：高木・竹之内班】
▼「海チーム」の高木委員は、毎月定期的に魚を捕獲して、水生生物の調査をしています。しかし今年は着目しているチリメンが一向に獲れません。魚付林周辺の海中も調査に入りますので、漁業者の皆さんもご承知ください。

【山チーム：榎原・宮本班】
▼地質学の榎原委員も学生とともに5月に来訪、農道沿いを踏査し、狩浜の地質学的特徴をつかまれたようです▼南予は急峻な地形が多いこともあって、その多くは土砂崩れで地形が形成されている。それは何百年というスパンでできあがる。例えば(指をさして)あのあたり(本浦の客人神社の丘)は土砂が崩れて止まったものです。：▼私は客人神社の横にある竜神様を祀った大岩は、上のタカナデあたりから滑り落ちたという口伝を聞いていたので、この神

原委員の話がピタリとおさま
り、驚きました▼この地域は
石灰岩を主として溶岩や砂
岩・チャートなどが混在して
いること。狩浜の石灰岩から
化石が出にくい理由は、深い
海から隆起してできあがった
ので、もともと生物が生息す
る可能性が低かったこと。狩
浜の物語は四国ができた一億
五千万年前から始まると助言
いただきました。

【総括：上杉班】

▼7月下旬には上杉・宮本正
副委員長が現地入りされ、農
業や地域の歴史の調査をはじ
めます。もし皆さんのお宅に
おうかがいしましたら、快く
お話を聞かせていただきたい
とお願いをいたします。

▼たとえば？こんなことをお
ぼえていらっしやいませんか？

- ・昔、石垣を積んだり積んで
いる風景を見たことがある。
- ・昔、狩浜で田に稲を植えた
り収穫したことがある。

- ・高機（たかはた）を使った。
- ・海水で塩を作った。
- ・牛や豚、ヤギなどの家畜を
飼っていた等々。

文化的景観の取組は
なぜはじまった？

▼文化的景観の制度ができて
まだ10年あまり。そのきっか
けになったのは平成7年「フ
イリピン・コルディレラ」の棚
田（ルソン島）が世界遺産
に登録されたことです。ここ
は「天国につづく階段」と形
容される見事な棚田群です。
その後「ヨーロッパ・ワイン
生産に関するブドウ畑」等が
相次いで登録されたことから
「農林水産業に関連する文化
的景観」が一躍脚光を浴びる
ようになったのです▼国内で
は「白米（石川県輪島市）や
姨捨（長野県現千曲市）の千
枚田」に代表される棚田の機
能や文化的価値が注目され、
このような社会背景の中、平

成12年から文化庁は「農林水
産業に関連する文化的景観の
保存・整備・活用に関する検
討委員会」を設置し、全国の
景観地研究がはじまったので
す▼さてコルディレラは美し
い棚田資源がある一方、若者
が都会に流出し、農業の後継
者不足や集落の人口減少また
生活形態の変化により遺産の
維持が危ぶまれ「危機にさら
されている世界遺産」にも登
録されています▼狩浜の段々
畑も同じ心配をされている方
がいらっしやいますが、ごも
つともなことです。でも何も
しなかったらどんな結果が想
像できるでしょうか。今が一
歩踏み出す好機だと思えば
方が、少しずつ増えているよ
うに思います。▼狩浜には訪
れた人が賞賛する景観資産が
あり、進行中の調査はその価
値を学術的に裏つけていくも
のです。それは集落に学び、
愛郷心をより深めるための種
になるといつてもいいでしょ

う▼景観保存の取組が、ここ
（里に住む人たちの暮らしと
景観をささえる生業（山・海）
を守ることにつながるよう、
皆さんの知恵を寄せ合いませ
んか▼ここには余所にはない
ゆるやかな時の流れがありま
す。換金できない文化があり
ます。これらも次の世代に引
き継ぐべき大切なことに違
りません。



世界遺産「コルディレラの棚田群」

将は人とらいつまき方

其二

戦時中の思い出

桑の皮はぎ

養蚕農家の畑では、桑の枝が剪定されたあと、桑の皮はぎが子どもに役割として任せられた。桑の葉をお蚕に食べさせてしまうと、その枝を切つてまた新しい枝を育てるのだ。切り取った枝の皮をはいで乾したものを学校に持つていくことが、当時の子どもたちの仕事であり、それぞれ量が割り当てられた。非農家であった私たちには、放課後桑畑に残された枝を、木槌であらかじめ叩いて皮を浮かせてはぐ作業は大変で、とうてい割り当て分の皮はぎはできなかつた。

ある日の朝礼で、割り当て量を達せられなかった生徒は、校庭に立たされてつらい思いをした。家に帰りその話をす



ると、父はすぐに農家から桑の枝をもらつて帰り、やにわに二本の竹を立ててしばつた。その中に桑の枝を差し込んで手前に引くばると木と皮がはがされ、大量の皮はぎができた。次の日、乾いたものを学校に持つてゆき、ようやくつとめを果たしたのであつた。

さて、その桑の皮は、どんなふうにお国の役に立ったのであろうか。しばらくして、学校から国防色（カーキ色）の男子用の上衣とズボンが配給され

た。男子用ばかりで女子にはもらえなかつたが、一徹者の父はズボンを一枚もらつてきた。男子用なのでズボンのままだ明き（チャック）を直し、裾にはゴムひもを入れてはいてみたが、布というよりざらざらとした穀物用の布袋といったような、あまり肌ざわりのよくないズボンで嫌だつたことを覚えて

いる。

桑の皮はぎ、ウラジロの皮はぎ、どんぐり集め、松根油と、幼いながらもそれぞれにお国のためにと頑張つたものだが、桑同様にならぬものが果たして（国や集落に）どれだけ役に立ったのであろうかと、つくづくと当時を思い起すのである。

（文と絵 佐藤博子さん）



【編集後記】

▼あつという間に7月も下旬調査もどんどん進んでいます。集落の皆さんからは、万全の協力体制を得られていることに感謝をいたします▼これまで地元をよく観察してきたつもりでしたが、今回の学術調査には、はじまつたばかりにも関わらず驚くことばかりです。この集落の成り立ちを知れば、これからの地域がめざすべき姿も創造しやすくなるはずです。まさに「温故知新」▼『汝の足元を深く掘れ。そこに泉あり』とのことばをに当てはめると、足元（地元）を掘り起こすことがどれほど大切なことか身に沁みます。聞き取り調査で昔の話をする方々のうれしそうな顔が何より我々の励みです▼さて秋に向けてワークシヨップの準備を進めます。こころご期待のほど。

※お問合せ先 文化体育振興課

電話 62-6416